

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 前期課程アカデミックコースの学生および後期課程の学生に対して、前期・後期課程一貫の計画的な研究指導計画を策定し、実施する。	→ 「前期・後期課程一貫研究指導モデルの策定」「前期課程アカデミックコース学生の研究計画書の作成」	C
2. 前期課程エキスパート学生に対する複数指導教員制（副指導教員制）を効果的に実質化するための方法を検討する。	→ 「前期課程エキスパート学生および教員に対する副指導教員制に対するアンケート調査の実施」「拡大大学院問題検討委員会における複数指導教員制の実質化についての検討」「副指導教員の指名数」「複数指導教員による教育効果の分析」	C
3. 講義科目（特に前期課程エキスパートコース科目）に対する学生の履修期待と教育内容との整合性を確保するため、法学研究科に特有のシラバス・モデルの開発を図る。	→ 「法学研究科シラバス検討委員会（仮称）の設置および法学研究科にふさわしいシラバスモデルの検討」「シラバスモデルの事前提示」「シラバスに対する学生の評価に関するアンケート調査の実施」	C
4. 教育効果についての定期的な検証を実施するための手続を整備し、これを実施する。	→ 「各年度における教育方法と効果に関する学生・教員アンケートの実施」「大学院教務学生委員・副委員等と学生代表からなるFD協議会（仮称）の設置」「拡大大学院問題検討委員会における教育効果に関する検討」「各年度における検討結果の研究科委員長への報告」	C

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

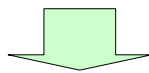
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.3.1	(方針) 前期課程においては、年次ごとの履修計画に基づき計画的な科目履修を実現すると共に、指導教員および副指導教員による効果的な研究指導を実施する。後期課程においては、学位取得モデルに沿って研究指導および学位論文作成指導を行う。 (現状説明) 後期課程の学生については、初年次の5月末までに研究計画書を提出させ、これに沿って指導教員・副指導教員が計画的に研究指導を行うこととした。2010年度より実施済みである。
☆ 小項目6.3.2	(現状説明) シラバス充実のあり方について検討中である。法学研究科の授業が少人数教育であり、受講者の研究内容に沿ったものであることへの期待と、講義内容の均質化を図るといった一般的な要請との間の適切なバランスを検討している。
☆ 小項目6.3.3	(現状説明) 成績評価方法および基準は、各科目についてシラバス上で明示することとしている。個別の成績認定に対する学生からの問い合わせ制度は特に設けていないが、学生アンケートにおいて学生からの要望が出されるようにしている。
☆ 小項目6.3.4	(現状説明) 各期毎に学生に対してアンケート調査を実施していると共に、2009年度より大学院教務学生委員・副委員と大学院生の代表とによる懇談会を行い、教育内容および方法を含む各種要望を大学院生より聴取している。更に、前期課程においては、各年度に1回、研究室ごとの合同研究発表会を開催し、学生への教育方法の改善に活用している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	シラバスの内容が2010年度分において大幅に改善・充実された。
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



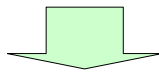
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
☆ 小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他
(自由記述)

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○設定された目標は適切ですが、改善の進んでいないことが問題です。学位授与方針や教育課程の編成方針を再確認し、それに整合した教育方法を検討する必要があるのではないのでしょうか。

【学内委員】

○学位授与の適切性の確保のための施策を実施に移し、目標の達成に向けて順調に進展しています。他の目標についても、現状説明をする必要があります。

○「C」の項目については、「改善すべき事項」での記述がある方が望ましいと思われます。

○2006年度の認証評価においてシラバスについて「助言」を受け、2010年度7月に改善報告書が提出されました。簡潔にその内容を記していただくと現状説明もより分かりやすいと思います。あり方について検討中とのことですので、検討結果が期待されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

☆ ・前期課程学生・後期課程学生の研究指導モデルの検討を継続する。
・シラバスについては、2009年度と比べて2010年度のシラバスの記述は大幅に充実した。今後その効果を検証しながら、更に少人数教育におけるシラバスのあり方を検討する。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.3.0.S1	大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
6.3.0.S2	履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
6.3.0.S3	少人数授業の授業形態の調査
6.3.0.S4	規模別講義室・演習室使用状況
6.3.0.S5	マルチメディア教室の稼働率
6.3.0.S6	遠隔授業を活用した授業の比率
6.3.0.S7	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.3.0.S8	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.3.0.S9	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.3.0.S10	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.3.0.S11	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.3.0.S12	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.3.0.S13	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.3.0.S14	履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
6.3.0.S15	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S16	オープン授業(授業公開)の全授業における割合
6.3.0.S17	学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
6.3.0.S18	学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
6.3.0.S19	在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
6.3.0.S20	在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
6.3.0.S21	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(キリスト教関連科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S22	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(語学)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S23	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(一般教養的な授業)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S24	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(専門科目)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率
6.3.0.S25	卒業生のうち、大学時代に学んだことや経験(ゼミ)が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

<個別的な指標>
